

<p><研究課題名></p>		<p>E-1002</p>	<p>地域住民のREDDへのインセンティブと森林生態資源のセミドメスティケーション化</p>	
<p><研究概要></p> <p>REDDにおいて、天然林、二次林、焼畑休閑林などを完全に荒廃地化させない、あるいは焼畑ローテーション期間を確保するためには地域住民の森林生態資源に対するインセンティブが最も重要である。インセンティブは地域住民にとって森林資源の利用と直結していることから、ラオス・ルアンナムター県、エチオピア・ナスレト、ペルー・ウカヤリ州の各地域において、伝統的知識に基づいた地域住民の熱帯林生態資源の利用実態を明らかにし、非木材林産物の持続的生産を目指すセミドメスティケーション化技術の開発を行い、地域住民のセミドメスティケーション化に参加する方法を検討し、その結果、カーボンプレジットがどれほど生まれるかを評価する。</p> <p>(1) 伝統的知識に基づいた地域住民の熱帯林生態資源の利用評価 東南アジア、アフリカ、ラテンアメリカにおける二次林、休閑林や薪炭材採取林の生態資源の伝統的利用実態を解明する。</p> <p>(2) 熱帯林生態系資源のセミドメスティケーション化の開発 ①植物生態資源のセミドメスティケーション化の開発 伝統的に利用されている植物資源の繁殖特性を明らかにし、焼畑休閑地や荒廃林地に粗放的に植栽する。 ②動物生態資源のセミドメスティケーション化の開発 伝統的に利用されている動物資源の繁殖様式を明らかにし、半家畜化を行う。</p> <p>(3) 地域住民の森林生態資源利用の住民参加システムの検討 ①移住-定着関係と生態資源利用における住民参加 移住-定着関係における地域住民の生活・家計に占める生態資源の価値と貨幣経済に依存しないコモディティを評価する。 ②環境保全政策と生態資源利用における住民参加 調査対象国で行われている環境保全政策をもとに、生態資源利用における住民参加システムを検討する。</p> <p>(4) 地域住民のREDDへのインセンティブと森林生態資源利用によるカーボンプレジットの評価 二次遷移植生資源の利用を通じたカーボンプレジットに対する地域住民の認識とREDDやCDMに対する問題意識を総括する。また、セミドメスティケーション化によりカーボンプレジット量を評価する。</p>				
<p><研究代表者></p>		<p>小林 繁男</p>	<p>京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 (60才)</p>	
No.	サブテーマ名		氏名	所属機関名・部局・役職名
(1)	伝統的知識に基づいた地域住民の熱帯林生態資源の利用評価	○	河野泰之	京都大学東南アジア研究所 教授
			山越 言	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授
			小林 繁男	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授
(2)	熱帯林生態系資源のセミドメスティケーション化の開発 ①植物生態資源のセミドメスティケーション化の開発 ②動物生態資源のセミドメスティケーション化の開発	○	竹田晋也	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授
			伊谷樹一	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授
			池谷和信	国立民族学博物館民族社会研究部 教授
(3)	地域住民の森林生態資源利用の住民参加システムの検討 ①移住-定着関係と生態資源利用における住民参加 ②環境保全政策と生態資源利用における住民参加	○	重田眞義	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授
			市川昌弘	高知大学農学部 教授
			藤倉達朗	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授
(4)	地域住民のREDDへのインセンティブと森林生態資源利用によるカーボンプレジットの評価	◎	小林 繁男	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授
			重田眞義	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授
			河野泰之	京都大学東南アジア研究所 教授